



アマチュアオーケストラ

新交響楽団第267回演奏会

The New Symphony Orchestra – 267th Concert

指揮 坂入 健司郎

SAKAIRI Kenshiro, conductor

ルトスワフスキ

Witold LUTOSŁAWSKI (1913-1994)

小組曲

Little Suite for Orchestra, 1951

ヤナーチェク

Leoš JANÁČEK (1854-1928)

歌劇「利口な女狐の物語」組曲

ターリヒ版・イーレク版に基づくオリジナルバージョン

Suite from the Opera “The Cunning Little Vixen”, 1923
arranged by Václav Talich / František Jílek

ブルックナー

Anton BRUCKNER (1824-1896)

交響曲第4番 変ホ長調 1878/80年稿

Symphony No. 4 in E-flat major, 1878/80 Version

JR 総武線・東京メトロ半蔵門線 錦糸町駅北口 Kinshicho Station, North Exit 17:00 開場

2024年10月12日(土) すみだトリフォニーホール18:00 開演

Saturday, October 12, 2024, 6:00pm (doors open at 5:00pm) at Sumida Triphony Hall

design: IMAO Keisuke

入場料 S席: ¥3,000 A席: ¥2,000 B席: ¥1,500 (全席指定)

チケットのお申し込み: teket <https://teket.jp/3558/36421> このQRコードをご利用ください →

インターネットを利用されない方は 080-9010-0058 (留守電にメッセージを入れてください)

プレイガイド: チケットぴあ <https://t.pia.jp/> Pコード: 275414

トリフォニーホールチケットセンター 03-5608-1212 (10:00 ~ 18:00)

<https://www.triphony.com/hallguide/ticketcenter.php>

無料のユース券をご用意しています。

小中高大学生、大学院生、専門学校生、29歳以下の方はこちらからお申し込みください →



*点字プログラムを若干部用意しております。入口でお渡しいたしますのでお申し付けください。

*おそれいりますが未就学児のご入場はお断りさせていただきます。

新交響楽団のホームページ <http://www.shinkyo.com/> 演奏会案内や曲目の解説、これまでの活動記録などがご覧いただけます。

聖堂に満ちる響きーオルガニスト・ブルックナーの交響曲

ドナウ川に面したオーストリア・リンツの南郊にある聖フローリアン修道院。ここでオルガニストをつとめていたのがアントン・ブルックナーです。当時は著名なオルガン奏者でしたが作曲家としては「遅咲き」で、最初の交響曲を上梓したのは40を過ぎていました。

ワーグナーに献呈した第3番の後、高い評価を得たのが今回取り上げる第4番です。「ロマンティック」のタイトルは本人が書簡の中で用いた表記によりますが、この標題と親しみやすさのため、9つの交響曲の中では演奏頻度が最も高い作品となりました。聖堂内の空間を満たすオルガンの響きを想起させるコラルはこの作曲家の特徴ですが、壮大な残響の後のゲネラルパウゼ（総休止）が印象的で、第2番の初演の際には「総休止交響曲」などと揶揄されたこともありました。

ウィーンから北東へ約200km、同じくオーストリア＝ハンガリー帝国（現チェコ）の小村に生まれたヤナーチェクの「利口な女狐の物語」は、ブルノの新聞に連載された「絵物語」に題材を得たオペラで、寓話的な要素に富む色彩豊かな作品。今回はターリヒ、イーレクの版から抜粋しました。ルトスワフスキは今年で没後30年を迎えますが、民族楽器の笛の響きを模した冒頭が印象的なフヤルカ他、全4曲からなる佳品です。（K. I.）

今後の演奏会予定

<第268回演奏会>

2025年1月5日（日）14時 ミューザ川崎シンフォニーホール

指揮：城谷 正博 曲目：ワーグナー/「ジークフリート」第3幕第3場他全幕より抜粋 演奏会形式 片寄純也(ジークフリート) 池田香織(ブリュンヒルデ) 升島唯博(ミーメ)

<第269回演奏会 芥川也寸志生誕100年>

2025年4月19日（土）サントリーホール 指揮：坂入健司郎 曲目：芥川也寸志/オルガンとオーケストラのための「響」（オルガン：石丸由佳）、シチェドリン/ピアノ協奏曲第2番（ピアノ：松田華音）、ショスタコーヴィチ/交響曲第4番

団員を募集しています

音楽監督の故芥川也寸志が長年にわたって主張し続けてきた「音楽はみんなのもの」を実践し、常に新しい視点を持って活動していくために、新しい力が必要です。現在、20代～80代の約100名が所属しています。

練習日程

原則として毎週土曜日の18～21時に行います。月に1回程度、日曜または祝日（基本的に昼～夕刻）にも練習があります（日程は半年ほど前には決定されます）。クラシックスペース☆100（大久保）や東京芸術劇場（池袋）をはじめ、東京23

区内の施設を利用しています。

オーディション

入団に際してオーディションがあります。年8回ほど、原則として土曜の16時から行っています。直近では8/31、9/28、11/30に開催予定です。詳細はお問い合わせください。各パートの課題曲の一部はHPにて公開しております。

入団を希望する方は、まず一度練習見学にお越しいただき、説明を受けたうえでオーディションをお申込みください。練習見学の希望は、お名前・連絡先・楽器（パート）・簡単な自己紹介を添えて info@shinkyō.jp までお送りください。

新響の魅力

①充実した音楽体験

自主演奏会はアマチュアとしては破格の年4回！一流の指揮者陣で、意欲的な曲目に取り組みます。加えて、団員有志による年2回の室内楽コンサートや、依頼演奏会への出演なども。

②充実した練習

8割以上の出席率をキープ！1シーズンの練習は平均13回、合奏と分奏をバランスよく取り入れ、2～3カ月の短期間で集中的に成果を出しています。原則として合奏・分奏ともに第一線のプロが指導にあたります。

③充実した団楽器・運搬システム

コントラバス、各種打楽器、コントラファゴットやワーグナーチューバなど多様な特殊管、チェレスタなどを団楽器として所有しており、使用できます。練習場までは専門業者のトラックで毎回運搬しています。

④安定した運営

1956年の結成以来、2024年6月時点で265回もの自主演奏会を開催し、ノウハウを培ってきました。安定した運営システムにより、意欲的な演奏会を企画しています。

毎月の「合同委員会」には誰でも参加でき、団の運営方針や選曲に関して積極的に意見を出し合っています。大学生から在団歴50年越えの大ベテラン団員まで、別け隔てなく意見を出し合える雰囲気も魅力です。

♪ 公式HP <http://www.shinkyō.com>

♪ X(旧Twitter) @shinkyō_tokyo

♪ Instagram @shinkyō_pr

♪ Facebook <https://www.facebook.com/shinkyō.tokyo/>

維持会のご案内 ～良いお席を安く～

新交響楽団維持会は、新響の演奏活動にご賛同いただき支援して下さる方々の組織です。集まった会費は、楽器購入や演奏企画に活用しています。会費は一口10,000円で、2年間有効の5枚綴りの回数券（どの演奏会でも一度に何枚でも使用可能）を差し上げます。良いS席を優先的に確保いたしますので当日その中からお選びいただけます。お申込みは郵便振替にて直接会費をお振込みください。郵便振替口座：00130-0-28074「新交響楽団維持会」